

2024年度 授業改善アンケート第1Q「教員コメント（学生に対するフィードバック）」

講義名	期間名	氏名	設問01
人間と哲学 (MDA)	1 Q	尾崎 有紀	大講堂という使用教室の広さと、200人弱という履修者の多さのため、講義中の学生の私語を講師としてコントロール仕切れなかった場面があったと感じる。私語は常にあるわけではなく、また、学生全員が講義にとっても集中しているときもあったため、口頭での注意喚起以外、私語を減らすための特別な措置はとらなかったが、中には私語を講義の妨げと感じていた学生もいたようである。この点について、講師として配慮と改善の余地があったと感じる。
人間と哲学 (哲学概論) (S)	1 Q	尾崎 有紀	大講堂という使用教室の広さと、200人弱という履修者の多さのため、講義中の学生の私語を講師としてコントロール仕切れなかった場面があったと感じる。私語は常にあるわけではなく、また、学生全員が講義にとっても集中しているときもあったため、口頭での注意喚起以外、私語を減らすための特別な措置はとらなかったが、中には私語を講義の妨げと感じていた学生もいたようである。この点について、講師としてもっと配慮と改善の余地があると感じる。
日本の歴史	1 Q	及川 琢英	アンケート結果を受けて、もう一度、授業内容を見直し、改善していきたい。
日本事情	1 Q	佐藤 恵利	アンケート結果を見て、学生が授業内容を理解していたとわかり嬉しく思います。今後もわかりやすく、理解しやすい授業づくりを心掛けたいと思います。
基礎英語Ⅰ (M-信濃)	1 Q	信濃 吉彦	概ね好評評価を頂いたようでありありがとうございます。雑談を増やしてノートの量を減らしてほしいとのコメントが多数ありました。雑談はやぶさかではありませんがノートの量は減らせません。だって書かせないと何もやらんしょ(笑)(笑) 基本的に英語はかけた時間分できるようになる科目です。頑張ってください!
基礎英語Ⅰ (M-岡島)	1 Q	岡島 徳昭	アンケートを参考に、より良い授業になるよう努めたい。特にパワーポイントの使い方を工夫したい。
基礎英語Ⅰ (M-石田)	1 Q	石田 暁子	様々な意見や感想が具体的に書かれてあり、とても参考になりました。現在進行中の「基礎英語Ⅱ」のメンバーがほぼ同じなので是非活かしていきたいです。また、今後も学生個々の理解度を知るようにしていきたいと思います。
基礎英語Ⅰ (M-井坂)	1 Q	井坂 肇	授業の理解度、満足度は概ね良好であった。授業の展開も学生にとって丁度よい進度であった。一方で期末テストの成果を確認すると、十分に理解できていないことが分かった。日本語がテキストに無く難しい指摘もあったので基礎英語Ⅱでは翻訳を配りながら授業を展開したい。文法の確認問題についても問題数を増やし、学生の知識の定着について確認しながら進めたい。
基礎英語Ⅰ (SDA-西崎)	1 Q	西崎 毅	「授業満足度」は、「満足した」以上が88%、「熱意」は、「そう思う」以上が100%、「板書等の表現の適切性」は、「そう思う」以上が97%でした。「文句のつけようがありません。とても専門的な教授です。」「文型について理解できるようになりました。」「空き時間にも教えてくれたので、英語が苦手な自分にとってはとても良い環境でした。」「分からないことがあった時にとても聞きやすかったです、分かりやすかったです。」「先生の声が聞こえやすい点、過去の資料を見返して理解を強固にすることを狙っている点、授業が堅苦しくならないように工夫されている点などが良いと思った。」等の評価を励みに一層の改善に努めます。
基礎英語Ⅰ (SDA-宮嶋)	1 Q	宮嶋 達也	全体的な授業内容については、英会話を中心としたワーク活動を多く取り入れ、コミュニケーションをとる機会も多く、実践的な英会話を学んで良かったという意見が見られ、楽しく学べていたようであった。会話をメインとした授業ということもあり、単語によってはスペルがわからないこともあり、フォローしていくことも必要であると認識した。
基礎英語Ⅰ (SDA-横田)	1 Q	横田 肇	例年通りの結果、具体的には、項目ごとでおおよそ8割のプラス評価、ただし、興味、満足度、理解度がやや低いという結果である。また、人数で全体的に、7割のプラス評価に対して3割ほどがマイナス評価である。ここ数年の印象であるが、比較的意欲的に取り組む層とそうでない層との二極化が見られる。後者は学力をはじめ、いくつかのマイナス要因を抱えた層であると推察される。この層の学生の向上に期待したいが、現状維持がやっとというのが悩みである。
基礎英語Ⅰ (SDA-井坂)	1 Q	井坂 肇	授業の理解度、満足度は概ね良好であった。授業の展開も学生にとって丁度よい進度であった。一方で期末テストの成果や授業評価アンケートの理解度を確認すると、十分に理解できていないことが分かった。日本語がテキストに無く難しい指摘もあったので基礎英語Ⅱでは翻訳を配りながら授業を展開したい。文法の確認問題についても問題数を増やし、学生の知識の定着について確認しながら進めたい。
ドイツ語入門Ⅰ (M)	1 Q	河田 一郎	・公欠時の処理は早めの対応を心掛けます。・教員により、授業中のうろさが異なるようです。このままの状況が続くようであれば、履修条件のGPAを高めに設定し、人数制限をすることも考える必要があるかもしれません。・第1Qの達成目標は「ドイツ語で自己紹介ができる」でした。「出身・今住んでいるところ・これから行くところ・年齢を問う」の質問、応答で会話文を作りやすいという問いに十分対応できると思います。・「聞き取りにくい声」は毎回、ご指摘いただくところで、マイクを使うなどで対応しています。今後は聞き取りやすい話し方を心掛けたいと思います。・質問に対してはつねにわかりやすい説明をしているつもりですが、ビントのずれた説明だったのかもしれない。善処致します。・今後も「飽きない授業」を継続したいと思います。
ドイツ語入門Ⅰ (S・D・A)	1 Q	河田 一郎	・履修者が多く、授業に対する賛否をたくさん聞くことができ、参考になりました。・今回は履修者が多く、教室、プロジェクターの対応が間に合わず、ご不便をおかけしたことをお詫びします。履修条件のGPAを高めに設定し、人数制限をすることも考える必要があるかもしれません。・「声の大きさ」、「文字の大きさ」は、毎回ご指摘いただくところでマイクを使うなどで対応しています。大音量での授業は音の暴力と考えていますので、少し控えめな音にしていますが、その都度、マイクの音量を確認しながらやっていこうとします。・「つまらないギャグ」は主語と動詞の位置を覚えてもらうために考えたものですが、不快に感じられた方もいらしたようなので、成果は出ているのですが、このギャグは当面封印致します。今後、何か気になること、やめてほしいことがありましたら、すぐに相談してください。早急に対応致します。・「ワンタイムパスワードの入力」に関するご提案、有難うございます。最初にドイツ語で言って、そのあとで数字を書く方法、採用したいと思います。・教科書・練習問題の使い方については、検討致します。・授業の進度についてですが、第1Qでは基礎を繰り返し、ゆっくり理解を深めてもらうことにしています。進度が遅いと感じる方もいると思いますので、第4Qでは、適宜調整していきたいと考えています。・今後も「カジュアルで、楽しい授業を」目指します。
ソーシャルワークの基盤と専門職 (M)	1 Q	櫻井 美帆子	全体的に反応が良く、授業をやりやすくて助かりました。教科書に沿って大枠で解説をしていったので、詳しく説明が欲しい部分が出てきたらお声がけください。
ソーシャルワークの基盤と専門職 (S)	1 Q	櫻井 美帆子	全体的に反応が良く、授業をやりやすくて助かりました。教科書に沿って大枠で解説をしていったので、詳しく説明が欲しい部分が出てきたらお声がけください。

医学概論	1 Q	宮崎 剛司	今後は、更に個性を意識し、常に理解度の確認をしつつ講義を進めるように努力します。
障害者福祉	1 Q	畠山 明子	コメントありがとうございます。配布資料や教材内容の検討等、より理解が深まるように今後も工夫していきたいと思います。
福祉サービスの組織と経営 (S)	1 Q	大島 康雄	振り返りの機会やディスカッションの機会を作っていきたいと思います。ありがとうございます。
福祉サービスの組織と経営 (M)	1 Q	大島 康雄	基礎知識が違う授業でどまどつた方もいるかと思いますが、分かりやすく今後も伝えていきたいです。
建築環境 I	1 Q	佐々木 哲之	この科目は単元ごと学生の理解度を確認しながら授業展開をしていくため、単元ごと学生が理解・確認のため授業内容の整理の時間を設け、今年度はアレテストを実施した。結果、アンケートでは各項目とも満足いく評価につながったと思う。しかし限られた中での理解度の確認時間と授業進度のバランスが難しくこれからも工夫・努力したい。
建築法規 I	1 Q	佐藤 善太郎	1.やっぱり今年も出ました「字が汚い」問題。僕は授業（というか講義）はある程度板書しながら進めていくのが聞いている方も理解しやすいと考えています。そのためある程度板書しながら進めていくのですが、いつも時間が経つにつれて授業に夢中で字も崩れてきます。今後共気を付けます。 2.今回の授業では冬用のマスクを装着しておりましたので後ろの席では声が若干聞きづらかったかと思います。マイクという手もありますが気が乗っていませんでした。今後はマイクも考えてみます。 3.実は法規の進行状況は遅れがちです。これは教室内のみんなが「ある程度理解したな」と僕が判断しないと先に進まないからです。授業の内容は建築士等の資格試験勉強とは別物だと考えていますので。工業高校出身でバリバリ独学で建築士の勉強をしている人にとっては物足りない授業かも知れませんがこの点主旨ご理解ください。
経営学総論	1 Q	信濃 吉彦	おおむね高い評価を頂けたようでありがとうございます。リクエストでは圧倒的にノートの量を減らしてほしい内容が多く感じましたが、量が減るか増えるかは皆さんの学習態度次第です。今年の状況をみる限り来年ノートの量が減ることはないと思います(笑)(笑)m()m
スポーツ経営管理論	1 Q	天野 雅斗	理解度や興味関心度の低い受講生にも分かりやすく興味をもってもらえるような内容にするべく引き続き授業改善に努めます。授業時の注意も徹底して参ります。また、学んだ知識を自らの言葉で論ずることが出来るような課題設定をしていきます。
スポーツ経営管理論 (SP)	1 Q	天野 雅斗	受講生がより良い学びが出来るように授業内容を引き続き改善して参ります。問いに対して、学んだ知識を自らの言葉で論ずることが出来るような課題設定をしていきます。
スタートアップ 演習 (M)	1 Q	河野 善文	学生のコメントからは、大学におけるレポートの書き方やノートへの関心をよみとることができました。今後は、高校までとは異なる大学での学びの基礎について、丁寧な授業をこころがけます。
スタートアップ 演習 (S)	1 Q	松下 後藤	アンケート記載、ありがとうございます。全体集計、自由記述意見（設問11、計9件）の結果をふまえ、担当教員2名は授業スキルの修整をすすめます。今年度は授業1-3回にて社会福祉学科DP、CPの理解、学務手続きの確認、学修アセスメントテストの活用、残り12回は、アカデミック・レポート基礎理解となりました。授業カリキュラムの再調整もおこなってまいります。
スタートアップ 演習 (D)	1 Q	三上 いずみ	今年度からこの授業を担当することとなり、進め方に不十分な点が多々あったかと思う。内容はこれからのデザイン学科での学修活動を充実したものにするため、主体性と協働性を育むことをねらいました。これらの意図はだいたい伝わったようで、授業中も活発なディスカッションがみられた。一部、授業内容を理解できなかったり、意味を見出せない学生もいたようなので、よりよく改善していく。
社会福祉の原理と政策 I	1 Q	小早川 俊哉	教科書の表現が分かり辛い部分があるので、かみ砕いた説明を意識していますが、事例提示を増やすことで、イメージからの理解度アップを心掛けていきたいと思っています。
ソーシャルワークの理論と方法 I (M)	1 Q	櫻井 美帆子	全体的に反応が良くて、授業をやりやすく助かりました。ソーシャルワークのアプローチの部分は、特に難しかったと思うのでわからなくなったときは声をかけて下さい。
ソーシャルワークの理論と方法 I (S)	1 Q	櫻井 美帆子	全体的に反応が良くて、授業をやりやすく助かりました。ソーシャルワークのアプローチの部分は、特に難しかったと思うのでわからなくなったときは声をかけて下さい。
ソーシャルワークの理論と方法(専門) I	1 Q	大島 康雄	コメントいただいたことを注意して対応していきたいと思っています。
地域福祉と包括的支援体制 I	1 Q	上原 正希	カリキュラムの改正があり、まだ2年目の科目で教員側も手探りな状態ではあります。ただ、国試に出やすいポイントが外部講師の授業など興味関心があったようなので引き続き実施をしていきたいと思っています。またひききをしていないというポイントはありがとうございます。話すスピードには気を付けたいと思います。感想を記載いただき、ありがとうございます。
精神保健福祉の原理 I	1 Q	西野 克俊	満足度として、とても満足できた82%、十分満足できた9%、満足できた9%となっており、一定程度満足していただけた内容になっていると実感しました。今後も工夫をしながら、さらなる向上を図りたいと思います。
ソーシャルワークの理論と方法(専門)IV	1 Q	西野 克俊	満足度として、とても満足できた22%、十分満足できた28%、満足できた44%となっており、通常程度に満足していただけた内容になっていると実感しました。 図のわかりずらさを感じる部分があったようで、今後さらなる工夫を行いたいと思います。
精神保健福祉援助演習III	1 Q	畠山・西野	アンケートの回答、ありがとうございます。授業毎の学生へのフィードバックをブラッシュアップして理解度を深めていきたい。
発達心理学 I	1 Q	蝦名 美穂	今年度は、授業の内容を絞りこみました。ですが、学生理解の状況を見ながら授業を進める努力をしましたが、時間配分が難しいところがあり、さらに次年度のに向けてこの点を修正したいと思います。
保育原理	1 Q	吉江 幸子	保育原理の受講、ありがとうございます。1年生は入学して初めて受講する大学の授業ということもあり、緊張感をもって参加していた印象があります。グループワークや発表、共同製作も加えながら、人と一緒に学ぶ楽しさや協調する意味を感じ取っていただけたようでうれしいです、コメントもありがとうございます。
生涯学習概論 I	1 Q	藤根 収	アンケート協力ありがとうございます。受講者の皆さんから満足できた、理解できたという概ね高い評価をいただきました。今後とも生涯学習について、分かりやすく、思考を深める授業づくりに努めてまいります。
特別支援教育総論	1 Q	堀川 厚志	「シラバスの授業時の説明や記述」について「適切ではない」の回答が1名、「時間配分など授業の進め方」「板書やパワーポイントの字や図の表現」「授業の内容は興味や関心を持てるもの」について「あまり適切ではない」の回答がそれぞれ1名、「授業の内容は理解できたか」について、「あまり理解できない」と回答した者が1名、「授業の全体的な満足度」について、「あまり満足できない」の回答が1名いました。記述欄には、まったく逆のプラス内容の記述が2名いました。マイナス評価1名の内容の具体はわかりかねるところではありますが、今後も資料や進め方等について、より理解しやすく、取り組みやすくなるよう改善、追求していきます。
精神保健福祉援助演習 I	1 Q	畠山・西野	アンケートの回答、ありがとうございます。授業毎の学生へのフィードバックをブラッシュアップして理解度を深めていきたい。

臨床心理学	1 Q	蝦名 美穂	講義時間が5, 6講時の遅い時間があるにもかかわらず、受講生は一生懸命講義を受けていました。講義形式が中心であり、もう少しワークを取り入れるなどしながら、次年度は進めていきたいと思っています。
障害児保育 I	1 Q	坂上 俊樹	授業でお伝えしたい内容が多岐にわたるため、時々急ぎ足になることがあり、受講生全員が十分理解できるまでに至っていないかもしれません。今後も、授業内容の精選とともに、質疑の時間の確保にも努力していきたいと思っています。
人文地理学 I	1 Q	塩崎 大輔	概ねポジティブな評価を得られたが、授業の理解度をよりあげられるよう、内容の改善に取り組んでいく。また、資料の見やすさについては、確認し、必要に応じて改善する。
カウンセリング論	1 Q	蝦名 美穂	カウンセリングについて理解を深め、実際にロールプレイをするということに苦痛を感じる方もいるかもしれませんが、そうすると内容に興味を持っていないこともあるでしょう。できるだけ、わかりやすく、ワークを実施することを試みましたが十分ではないところがあったようです。この点について、次年度以降工夫をしていきたいと思っています。
スクール・ソーシャルワーク論	1 Q	上原 正希	全体的に高評価でしたが、設問6の「先生は学生の理解度を確認しながら授業を進めましたか」が高いながらも一番低かったようなので、今後は学生に理解度や授業のペースなどを確認しながら進めていきたいと思っています。アンケートにお答えいただき、ありがとうございました。
子ども家庭支援論	1 Q	杉本 大輔	プリントのミスタッチなどの課題が残った。
社会的養護 I	1 Q	杉本 大輔	コメント欄の回答が少ないということは凡庸な講義だった証拠。猛省する。
音楽表現 II	1 Q	小黒 万里子	「音楽表現 I」からの引き続きの授業でしたが、真面目に取り組み実践(演習)、基礎の理解等一步步前進して、授業を終える事が出来ました。充実した時間を共有出来ました事、嬉しく思っております。これからも、更に研鑽を積んで社会で通用する力をつけて下さい。
デザイン概論 I (1年)	1 Q	北嶋 洋一	※全4クラス共通コメント シラバスに関して) 授業の進行は概ねシラバスどおりだったが、後半の日程を一部修正し、連続性の無い内容をIIへ移動することにした。アンケートの回答でも、この点に対する評価が低かったため、次年度のシラバス作成時の留意点としたい。話し方・進め方について) 190名を相手にする授業だったので、細かな配慮はできず、ほぼ一方通行の授業が進行していたと思う。これについて今後は人数に合わせた、効果的で、より良い授業の方法を確立していかなければならない。担当初年度だったので、スケジュールが掴みず、進め方が急ぎすぎた感が否めないため、この点も次年度に向けて検討しなければならぬと感じている。板書やPowerPoint・配布資料について) 板書は全く行っておらず、授業はPowerPointのみで進行、配布資料は授業で用いたスライドのPDF版のみだったが、果たしてそれで良かったのかどうかは検討中である。アンケートに於いて4クラスとも適切との回答が50~60%だったことと、紙での資料を求めていた意見もあるので、今後は考慮しなければならぬ。理解度の確認について) 小テストや試験結果以外では学生の理解度を確認する術がなかったのが実情である。特に最終試験を見るに平均点が予測していたよりも低かったことが、かなり厳しい結果となって表れてしまった。授業の満足度について) 満足できたとの回答が30~50%という結果を見るに、次年度の授業内容は大幅な改善が求められるということと受け止めている。担当初年度なので、未だ試行錯誤の最中であり、学生の理解度を高める方策を中心に考えていきたい。
デザイン概論 I (2年)	1 Q	北嶋 洋一	※全4クラス共通コメント シラバスに関して) 授業の進行は概ねシラバスどおりだったが、後半の日程を一部修正し、連続性の無い内容をIIへ移動することにした。アンケートの回答でも、この点に対する評価が低かったため、次年度のシラバス作成時の留意点としたい。話し方・進め方について) 190名を相手にする授業だったので、細かな配慮はできず、ほぼ一方通行の授業が進行していたと思う。これについて今後は人数に合わせた、効果的で、より良い授業の方法を確立していかなければならない。担当初年度だったので、スケジュールが掴みず、進め方が急ぎすぎた感が否めないため、この点も次年度に向けて検討しなければならぬと感じている。板書やPowerPoint・配布資料について) 板書は全く行っておらず、授業はPowerPointのみで進行、配布資料は授業で用いたスライドのPDF版のみだったが、果たしてそれで良かったのかどうかは検討中である。アンケートに於いて4クラスとも適切との回答が50~60%だったことと、紙での資料を求めていた意見もあるので、今後は考慮しなければならぬ。理解度の確認について) 小テストや試験結果以外では学生の理解度を確認する術がなかったのが実情である。特に最終試験を見るに平均点が予測していたよりも低かったことが、かなり厳しい結果となって表れてしまった。授業の満足度について) 満足できたとの回答が30~50%という結果を見るに、次年度の授業内容は大幅な改善が求められるということと受け止めている。担当初年度なので、未だ試行錯誤の最中であり、学生の理解度を高める方策を中心に考えていきたい。
インテリアデザイン I	1 Q	梅田 真紀	インテリアデザインの操作については、スクリーンのデモンストレーションをより丁寧に、各自で参照できる資料を準備したいと思っています。
インテリアデザイン I	1 Q	赤木 良子	課題の説明が足りないという意見については、配布のみならず、今後もう少し説明を加えようと思います。授業を計画的に・効率的にしたいとありました。数度目の授業で皆さんの進捗と理解度を踏まえて課題設定を変更し、説明をした上で、計画表を全員に配布しました。その配布以降は、全く変更なく、計画通りに授業は進めましたので、どの週のどの部分をご指摘のところかまた機会があったら教えてください。また、その意味で十分計画的な授業だったと思いますが、最初の予定からは変更したことについては、賛否両論ありましたので、今後に役立てようと思います。なお、賛成意見については、臨機応変な対応についてのポジティブなコメントがありました。また、「効率」ということですが、この授業は創造性を向上させることが主目的です。成績上位だった方々は、授業時間中、非常に一生懸命取り組んでおりました。他方で授業時間が2講続であったにも関わらず、おしゃべりや別のことをして過ごしている人もいました。時間の使い方については、個々の創造性にも関わることなので、人によって作業の時間が異なることもあり、強く指摘はしませんでした。しかし、慣れない作業をまず覚えていく段階では初めから効率的に図面を描いたり、デザイン案を生み出すことは難しいのではないのでしょうか。失敗したり、やり直したりする時間が出てしまうのではないのでしょうか。故に、使える時間をどのように使うか、授業時間を最大限どのように活かすかについては、学生さん本人のやり方に委ねております。そのような努力を望みます。ムードボード作成についてのアドバイスが欲しかったとのことですが、人数と時間の関係で全てデスクを回りにきれいな部分があります。もし質問があれば気軽に聞いてください。教科書をなぞるだけの授業に感じたと思いますが、教科書はあくまでも図面の書き方のみ載っていますので、課題内容にはあまり沿っていません。課題内容が理解できていれば、クリエイティビティを発揮する部分が見えてくるのかなとも思います。その点については、課題の説明をもっと行うことは先述のとおり、来年度から役立てます。課題を通して様々なことが理解でき、自由度も高く楽しかったというコメントについては、大変嬉しいです。ありがとうございました。楽しめることが一番の上達と創造力を育む原動力だと思います。

東洋・日本美術史Ⅰ	1 Q	苦名 真	二コマ続きのパワーポイントを使った座学、それも通史的な内容で、集中力を保つのは大変だったと思いますが、驚くほど熱心な姿勢で授業に臨んでくれました。おかげで私もとても気持ちよくお話しすることができました。毎回冒頭に実施した各時代を代表する1点の作品に対する皆さんの感想も非常に鋭く、私自身新たな気づきを得ることができました。最後までほとんど欠席もなくお付き合いいただきありがとうございました。第3Qの東洋日本美術史Ⅱもぜひ受講してください。
子どもの保健	1 Q	宮崎 剛司	各アンケート項目を見直して、「とても満足できた」と回答されるように講義形式を変更したいと思う。そのためには、今後は学生との適度な距離を取りつつも、さらにアクティブラーニングが行えるように実施していきます。
建築史	1 Q	赤木 良子	ほとんどがポジティブなコメントでありありがとうございました。様々な授業形式を取り入れましたが、それについてもポジティブなコメントが多かったため、来年度からもそのような形で進めたいと思います。唯一、マイクのハウリング、パワーポイントが映らない日何回かあったことについての指摘があり、来年度はそのような事態が起きないようにしたいと思います。安定した授業環境の確保をしていきたいです。
建築計画Ⅰ	1 Q	安藤 淳一	多くのご指摘いただきありがとうございます。建築計画Ⅰの授業内容として計画理論として長きにわたり変わらずに理解していただかなければならない部分が多いため、今まで以上に理解してもらえるような内容を検討・修正していきたいと思えます。
建築材料実験(2年)	1 Q	長森 正	授業改善アンケートのご協力ありがとうございます。理解度、満足度ともに90%以上の評価があり、楽しく新鮮な気持ちで受講できたとの回答もありました。班のなかで協力しながら実験をしていたようです。実験に臨む姿勢も良く、後片付けや清掃なども協力して作業していました。さらに実験内容と座学との連携を通して理解度が増すように努力します。
施工管理技士演習Ⅱ	1 Q	小笠原 健	この施工管理技士演習Ⅱは、前期の施工管理技士演習Ⅰの続きとなり、2つの講座を併せて、今年度の「1級建築建築施工管理技士(学科)試験」対策に対応しています。また、国家試験対策講座であるため、履修者はこの試験を受験することを前提としているが、各履修者によって、資格に対するモチベーションや勉強に対する姿勢が異なるため、履修者全員に高い意識を持たせることには限界があります。高い意識の学生からすると講義中の他の履修者の受講態度が気になるのは理解できますが、極力、モチベーションを維持できる範囲で対処しているつもりです。また、資格試験対策に適した教材を提供しているつもりではありますが、すべての過去問に対応しているテキストとなっていないため、出版先へ改善を求めているものの、完璧な内容となっていないのは、やむを得ない範囲であるものと理解してもらいたいと思います。今回から、前年度の2級建築施工管理技士試験対策から受験資格の改正から、1級建築施工管理技士試験対策へグレードアップした講義内容となり、多少の不手際があることも容赦いただければ幸いです。あとは、来月に実施される本試験の結果により、最終評価をしてもらいたいと切望するものです。また、ほぼ履修者全員から高い評価を頂きましたが、各履修者のご意見は今後の参考にさせていただきます。
二級建築士演習Ⅰ	1 Q	佐藤善・向井	引き続き 授業改善に努めます。
都市計画	1 Q	安藤 淳一	都市計画の授業内容は歴史的部分と現代都市・まちづくり部分の比重で毎年検討していますが、再度見直しをかけよりバランスの取れた内容と時間配分に修正したいと思います。
一級建築士演習Ⅰ	1 Q	伊藤裕・佐々木哲・君	今後は間違いの多かった設問に対して解説するように努めていきたいと思えます。
応用物理	1 Q	伊藤 裕康	受講者が6名と少なかったため、演習問題において個別見て回ることができたり、発問に対して個別に発言を促すことができました。今後も個別対応するように努めます。
建築士のための基礎数学	1 Q	横山 哲也	学生の理解度の把握をもっと心がけるようにする。
デザイン概論(1年)	1 Q	北嶋 洋一	※全4クラス共通コメント シラバスに関して) 授業の進行は概ねシラバスどおりだったが、後半の日程を一部修正し、連続性の無い内容をⅡへ移動することにした。アンケートの回答でも、この点に対する評価が低かったため、次年度のシラバス作成時の留意点としたい。話し方・進め方について) 190名を相手にする授業だったので、細かな配慮はできず、ほぼ一方通行の授業が進行していたと思う。これについて今後は人数に合わせた、効果的で、より良い授業の方法を確立していかなければならない。担当初年度だったので、スケジュールが掴みず、進め方が急ぎすぎた感が否めないため、この点も次年度に向けて検討しなければならぬと感じている。板書やPowerPoint・配布資料について) 板書は全く行っておらず、授業はPowerPointのみで進行、配布資料は授業で用いたスライドのPDF版のみだったが、果たしてそれで良かったのかどうかは検討中である。アンケートに於いて4クラスとも適切との回答が50~60%だったことと、紙での資料を求めていた意見もあるので、今後は考慮しなければならぬ。理解度の確認について) 小テストや試験結果以外では学生の理解度を確認する術がなかったのが実情である。特に最終試験を見るに平均点が予測していたよりも低かったことが、かなり厳しい結果となって表れてしまった。授業の満足度について) 満足できたとの回答が30~50%という結果を見るに、次年度の授業内容は大幅な改善が求められるということを受け止めている。担当初年度なので、未だ試行錯誤の最中であり、学生の理解度を高める方策を中心に考えていきたい。
デザイン概論(2年)	1 Q	北嶋 洋一	※全4クラス共通コメント シラバスに関して) 授業の進行は概ねシラバスどおりだったが、後半の日程を一部修正し、連続性の無い内容をⅡへ移動することにした。アンケートの回答でも、この点に対する評価が低かったため、次年度のシラバス作成時の留意点としたい。話し方・進め方について) 190名を相手にする授業だったので、細かな配慮はできず、ほぼ一方通行の授業が進行していたと思う。これについて今後は人数に合わせた、効果的で、より良い授業の方法を確立していかなければならない。担当初年度だったので、スケジュールが掴みず、進め方が急ぎすぎた感が否めないため、この点も次年度に向けて検討しなければならぬと感じている。板書やPowerPoint・配布資料について) 板書は全く行っておらず、授業はPowerPointのみで進行、配布資料は授業で用いたスライドのPDF版のみだったが、果たしてそれで良かったのかどうかは検討中である。アンケートに於いて4クラスとも適切との回答が50~60%だったことと、紙での資料を求めていた意見もあるので、今後は考慮しなければならぬ。理解度の確認について) 小テストや試験結果以外では学生の理解度を確認する術がなかったのが実情である。特に最終試験を見るに平均点が予測していたよりも低かったことが、かなり厳しい結果となって表れてしまった。授業の満足度について) 満足できたとの回答が30~50%という結果を見るに、次年度の授業内容は大幅な改善が求められるということを受け止めている。担当初年度なので、未だ試行錯誤の最中であり、学生の理解度を高める方策を中心に考えていきたい。
北国の建築と住まい	1 Q	安藤 淳一	授業内容は毎年見直しをして、より理解できるような情報量になるよう修正していますので、来年度に向け再修正いたします。今年度から新型コロナウイルスが落ち着いてきたため見学回数を増やしましたので、見学場所までの移動方法は今後検討したいと思います。

建築構造力学Ⅲ	1Q	小笠原 健	履修者全員からほぼ高評価を頂きました。建築構造力学Ⅲの講座は、二級建築士試験範囲である建築構造力学Ⅰ・Ⅱの修得済みであることを前提に一級建築士試験範囲としています。よって、建築構造力学Ⅰ・Ⅱを十分理解していなければ、とてもこの講座の講義を理解することは困難であります。よって、初回に実力判断テストを実施し、今までのⅠ・Ⅱの修得レベルを確認したうえで、前半は主に復習となる講義を行い、その後、本来の建築構造力学Ⅲの講義を実施した次第です。しかしながら、2科目分の復習と同時に新講座の講義を実施するには限界がありますので、残念ではありますが、履修者のうち、約1/3程度の学生は落第評価となってしまいました。あくまで、建築構造力学Ⅲの講座なので、一定レベルの学力を修得していない履修者へ単位認定することはできませんが、今後の課題として考えていきたいと思っています。もっと、下級生時に履修する建築構造力学Ⅰ・Ⅱの範囲のレベルアップをしていかなければ現状のスキル改善は厳しいものと推察しますので、その講座の担当教員におかれましては、実力に達しない履修者への単位認定を厳格化してもらいたいと期待するものです。
マーケティング論	1Q	鈴木 重政	必修科目で質・量とも大変だったと思いますが、熱心に受講した学生が大半でした。マーケティングは現代の経営学では根幹をなすものなので、今回同様の講義を継続します。
中小企業論	1Q	石山 玄幸	アンケートの回答、ありがとうございます。とりわけ、例年よりも自由記述において高い評価を頂けたことに感謝します。中小企業論は、大学の1年生を対象としていることから、経営学の基礎的な内容を中心としています。第二Q以降、経営の専門科目に役立ててもらえれば幸いです。
スポーツ行政学	1Q	三嶋 康嗣	今年度より1年1Q開講となった。1年次学生には少々難易度が高い内容のため、一定のスポーツ系基礎知識をインプットさせた上で進行していきたい。また、授業毎の学生へのフィードバックをブラッシュアップして理解度を深めていきたい。
原価計算論	1Q	鈴木 重政	月曜と水曜の1講目の科目で、学科オリエンテーションでは進行担当の先生から「1講目なのでとらないほうがいい」との説明がありましたが、履修した学生は全員真面目に熱心に受講してくれたと思います。担当して30年を超えますが、来年も同様な講義を行います。
商法	1Q	青山 浩之	第1クォーター2講目 木1講目の科目で、履修者88名、平均出席率70%、回答率84%であった。設問4・5「資料・教材」はとても・充分適切が7割超え好評価を受けました。設問7「興味関心」はとても・充分適切が7割、10「満足度」では、好評価をいただきました。設問8「理解度」は好評であった。例年より出席状況が悪かったので、今後はより興味を持てるように努力したい。記述では「体系的に理解できなかった」との指摘を受け止め、改善していきたい。
体育史	1Q	尾西 則昭	評価ありがとうございます。皆さん方からいただいた評価を次年度に向けた教育実習や現場で活用できるような資料・実践等など、工夫と改善、アイデアに努めていきます。
スポーツマネジメント論	1Q	五ノ井 壽一	「より授業に興味を持ち、理解を深めるように創意、工夫、努力いたします。（体験談等を取り入れる）」
経営分析論	1Q	石山 玄幸	アンケートの回答、ありがとうございます。経営分析論は、現4年生と3年生のスポーツマネジメントコース以外の学生は必修講義となっています。会計科目の苦手な学生にとっては、厳しい講義だと思われるが、将来、企業に入社後は企業業績との関いになります。ぜひ、本講義で学んだ分析手法を社会人になってから活用してもらえたら幸いです。
経営分析論 (SP)	1Q	石山 玄幸	アンケートの回答、ありがとうございます。経営分析論は、現4年生と3年生のスポーツマネジメントコース以外の学生は必修講義となっています。会計科目の苦手な学生にとっては、厳しい講義だと思われるが、将来、企業に入社後は企業業績との関いになります。ぜひ、本講義で学んだ分析手法を社会人になってから活用してもらえたら幸いです。
レポートファイナンス論	1Q	川津 大樹	「プリントの多さ」については、どれも授業に不可欠な内容であるため削りにくいですが、内容を見直します。また、両面印刷が片面印刷かは、昨年のアンケートで片面派が多数だったための措置でしたが、再検討します。私語がうるさい学生には、しっかり注意するようにします。
スポーツとヘルスケア	1Q	佐藤和・三嶋	スポーツとヘルスケアに関して、興味を持ってもらい理解してもらうことを意識しプロジェクターを使用しながら授業を進め、授業の最後には必ずリフレクションを行ない授業の理解度を確認した。今後は、パワーポイントの図や表現を工夫しながら授業の理解度を深めていきたいと思う。
国際経営論	1Q	岡島 徳昭	アンケートを参考に、より良い授業になるように努めたい。特にパワーポイントの使い方を工夫したい。
産業社会論	1Q	山本 一彦	一部履修者に内容を理解できなかったという回答があり、次年度以降の当該科目授業ではそれを無くすよう努めたい。引き続き、理解を促すための事例提示等の工夫を試みたい。
ビジネス英語	1Q	石田 暁子	新出のビジネス用語を復習で確認したところ、定着が予想より悪かったことが残念でした。少人数クラスのため、学生は授業中何度も指名されることとなり、気を抜くことができなかったことでしょうか。しかしながら脱落者が出ることはなく、全員が気持ちよく合格できて良かったです。
地域情報論	1Q	猪尾 紀幸	今年度より事前に講義で使用する資料をTeamsにアップしてスクリーンが見づらくても手元のPCやタブレット等でも見ながら講義を聴けるように行った。ただPC、タブレットを持ち込んでいる生徒も少ないため、引き続きスクリーンへの描写の見やすさ等は配慮していきたいと思います。地域情報論の講義については、実際の地方自治体の施策、取組み状況等を事例、統計データなどを活用しながら地方地域の課題、取組みに対し学生の関心を高めていけるよう授業を進めていきます。
スポーツ原理	1Q	高井 雅一	近年にない低い評価をいただいた。グループ学習や授業中に各自が考え回答を記載してもらうような授業も展開したが、難しかったようである。授業内容と学生の学習力を再度鑑み、次年度に生かして改善していきたい。
スポーツビジネス論	1Q	鈴木 重政	学生たちから提出されたレポートは「題意に沿わない」「ネットからのコピペ」「AIが作成」など質の低下が目立ちました。来年度は担当が変わるので改善コメントはありません。
スポーツビジネス論 (SP)	1Q	鈴木 重政	教職を目指すための悲愁科目であるにもかかわらず、学生たちから提出されたレポートは「題意に沿わない」「ネットからのコピペ」「AIが作成」など質の低下が目立ちました。来年度は担当が変わるので改善コメントはありません。
器械運動	1Q	廣田 修平	本授業を通して、これまで苦手意識を持っていた器械運動の実技技能習得に積極的に取り組む様子が見られました。特にマット運動の「後転」や「三点倒立」、鉄棒運動の「前方支持回転」などの技術向上が顕著に見られました。自らの運動学習経験こそ、教員になった際の実技指導の基盤となりますので、今後も実技系科目、積極的に取り組んで受講することを期待しています。
社会学概論	1Q	松下 守邦	履修学生は、文献精読、要旨報告をひとりあたり計2回、もめました。分担報告については、授業のなかで個別フィードバックをおこなうよう配慮しましたが、参考文献をTeamsファイルにおきました。次年度は、報告前に関連文献が読み込めるよう工夫をしていきます。

アガビジネス論	1 Q	石山 玄幸	アンケートで高い評価を頂いたことに感謝しています。普段の経営学の講義では、商業や製造業が事例となっていますが、本講義は農業のビジネスについて学ぶ講義です。農業は人類が生きていくにあたって必ず必要な産業です。農業に関するビジネスを学ぶことで、一つ新たな考え方や視点を身に付けてもらえたら幸いです。
デザイン製図	1 Q	松岡 龍介	この科目は、将来、美術においては幾何学的な立体造形を創作するような事に興味のある学生や、プロダクトデザイナーやインダストリアル・デザイナーとして社会で活躍しようとする学生、あるいは、高校の美術教員（工芸）の教員として指導にあたることを希望する学生たちのための「最初の製図表現」の科目です。三面図や立体図、CG等の表現を学び、誰にでも判りやすい内容で、クラスの進度に合わせて基本的な内容を学びます。
デジタルデザイン	1 Q	上坂 恒章	今年度からセメスターからクォーターに一方的に変更されて、再三、演習科目であることから学生の習熟度に対して懸念を伝えましたが受け入れられず、授業を実施した。学生のアンケートに「課題の提出期限も短く提出するのに精一杯だった」とあるように、懸念したことの意見が出た。この科目は、非常に重要であることから事前、事後学習が大事であり、クォーター（週2回）により学生の主体的な学修の時間が物理的に取れないため、習熟度が落ちたと言える。 教学に関して、学科教員が専門であることから、学生に有効な学習環境を整えるということを主眼としてカリキュラムを決めて欲しい。
アントレプレナーシップ I	1 Q	阿部 裕樹	パワーポイントを見やすいように前席の照明を落としていましたが、暗すぎるという声がいくつかありましたので、次の講義でももう少し明るい状態で行います。また、理解度確認のため的小テストの実施も検討したいと思います。
教職論	1 Q	木村 浩紀	授業の趣旨を概ね理解していただき、多くの方に興味をもって取り組んでいただいたようです。グループディスカッションや時間配分などについては、さらに工夫をしていきますが、教師を目指して授業に向き合う皆さんの姿勢を感じ取れたのは、指導者としてもうれしく思いました。
教育原理（MDA・2年）	1 Q	西崎 毅	「授業満足度」は、「満足した」以上が100%、「熱意」は、「そう思う」以上が100%、「教材の適切さ」は、「適切だった」以上が100%でした。「グループワークやICTを取り入れた講義が自分の考えをブラッシュアップできるもので良かった。しかし、ICT講義を展開するのに試験的なものも見られ置く場面も見られた。」「今年からチームズやエクセルを使った授業を行ってくれて新鮮味があり、とても楽しく授業を受けることが出来た。」「様々な観点から教育を学ぶことが出来た。」等の評価を励みに一層の改善に努めます。
教育原理（S・2年）	1 Q	西崎 毅	「授業満足度」は、「満足した」以上が100%、「熱意」は、「そう思う」以上が100%、「教材の適切さ」は、「適切だった」以上が100%でした。「良かった点はきりがありません。まずは、各授業で課題について自分で探究、判断して、グループで意見交換をすることで各授業の課題についての視野が広がりました。さらに、全員の前でグループ外の人が発表することでさらに、学びが深まりました。さらに、アクティブ・ラーニングを行うだけでなく、授業の大事なポイントは講義で説明していただいたのでとても自分にとってとても有意義な時間になりました。自分はこの授業にとっても興味があつたので、夢中になれました。先生のような授業をしてくれる人が増えると、もっと授業に対して真剣に取り組む人が増えると思います。」等の評価を励みに一層の改善に努めます。